

# 史跡三河国分寺跡整備基本構想の概要



三河国分寺跡塔跡に残る礎石



現国分寺に伝わる古代の梵鐘

## はじめに

豊川市八幡町に所在する三河国分寺跡は、大正 11 年に指定を受けた国指定史跡です。国分寺とは、天平 13(741)年に仏教を厚く信仰していた聖武天皇が、仏教の鎮護国家の思想により政治や社会の不安を鎮めようと各国に国分尼寺とともに建立を命じたとされる古代寺院です。これまでに豊川市では、三河国分寺跡を大切に後世へと伝えていくための史跡の公有地化や遺跡の様相を探るための発掘調査などの事業を実施してきましたが、今後この遺跡の史跡整備をどのように進めていくかについて、平成 19・20 年度の 2 ヶ年にわたり有識者や地元の方々とともに検討を重ね、その基本構想を策定しました。以下、史跡三河国分寺跡整備基本構想の概要についてご紹介します。

## 1 基本理念

合併により拡大した新市のまちづくりの推進に対応した、個性的な魅力あふれるまちづくりに資するため、史跡三河国分寺跡及びその周辺地域の歴史的文化遺産の保存と活用を進めて現代社会に再生させ、国民共有の財産として将来世代へと引き継ぐ。

### 【整備テーマ】

古代三河を物語る歴史的文化遺産やその風土を生かし、古代と現代、そして未来に向けての調和ある効果的な地域づくりを図る。

古代三河のロマンとのふれあい＝天平の風薫る歴史回廊

### 【整備目標】

- ① 地域に守られてきた歴史的文化遺産を次世代に継承する場として整備する。
- ② 歴史の重層性を備えた本史跡の価値を顕在化させた整備を行う。
- ③ 八幡宮の社叢等周辺の自然環境の保全と一体となった整備を行う。
- ④ 周辺の歴史的文化遺産とのネットワーク化を具体化する。

## 2 基本方針

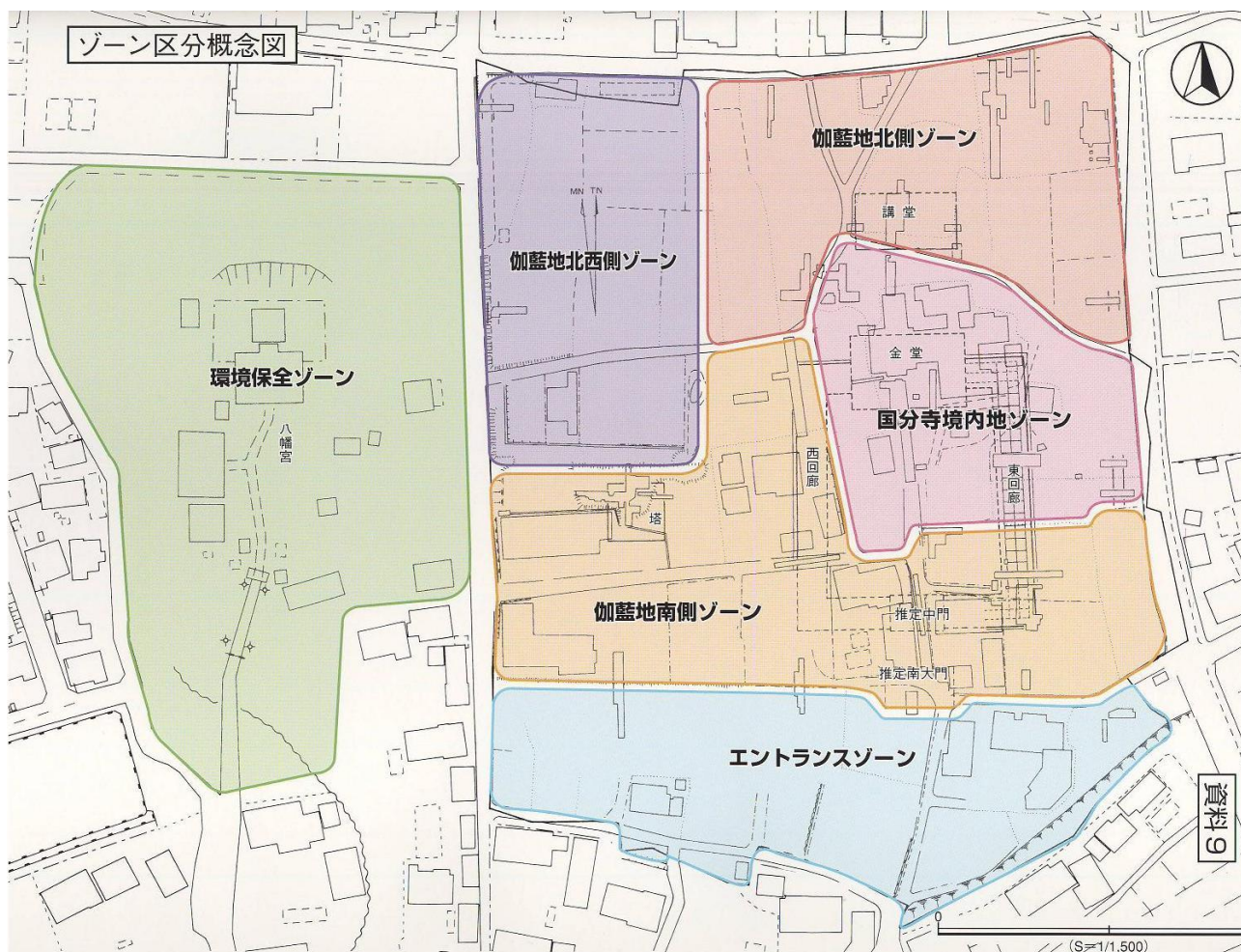
本史跡をめぐる課題の整理及び基本理念に基づき、整備の基本方針を次の通り定める。

- ① 古代三河国を代表する遺跡として、既に供用開始した史跡三河国分尼寺跡史跡公園及び周辺の歴史的文化遺産の整備との調整を図りながら、古代三河国の国府所在郡（宝飯郡）を市域とする新市のシンボルとして整備・活用を進める。
- ② 整備にあたっては、発掘調査はもとより文献調査や環境調査、また調査結果に対する研究を継続的に進め、その成果を計画策定や活用施策に反映させるとともに、全国に向け情報発信する。
- ③ 本史跡は弥生時代・古代・中世にわたる複合遺跡であり、かつ戦国時代以来の法灯を保ち指定文化財を所蔵する現国分寺が所在するので、遺跡の保存を大前提とした上で、そうした歴史の重層性を生かした整備・活用の方策を検討する。
- ④ 本史跡周辺では大規模な区画整理事業が進み、土地利用や道路交通体系、景観等が大きく変わろうとしているが、そうした土地利用計画、道路計画、公園緑地計画、防災計画、景観計画の見直し・立案等において、一体的な歴史環境・自然環境の保全が図られるよう、関係機関で協議・調整を図るものとする。

## 3 史跡整備のゾーン区分と整備目標

史跡三河国分寺跡の整備方針を検討するにあたり、現状の土地利用や所有関係と整備目標とを照らし合わせた場合、いくつかのゾーンに分けて具体的な目標を定め整備を推進することが実際的かつ効率的と考えられる。そのため下表及び次頁の概念図のとおりゾーンを区分し、それぞれの整備目標を定める。

| No. | ゾーン名称         | 整 備 目 標                                                                   |
|-----|---------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1   | エントラン<br>スゾーン | 伽藍地の正面からの視界を確保するのに必要な空間であり、景観に配慮しながら総合案内板や便益施設等を整備し、エントランスゾーンとしての整備を目指す。  |
| 2   | 伽藍地南側<br>ゾーン  | 古代国分寺の正面観の再現をはかる空間として、調査で確認された古代国分寺の伽藍の環境整備が進められるよう遺構の保存を目指す。             |
| 3   | 国分寺境内<br>地ゾーン | 遺構の保存を前提として、当面は、本史跡の歴史の一翼を担う現国分寺の境内景観や寺院機能が維持可能な環境整備を目指す。                 |
| 4   | 伽藍地北側<br>ゾーン  | 伽藍地南側ゾーンとともに古代国分寺の伽藍中軸線を意識した空間として、調査で確認された古代国分寺の伽藍の環境整備が進められるよう遺構の保存を目指す。 |
| 5   | 伽藍地北西<br>側ゾーン | 戦国時代の遺構の残る空間として、土塁等の遺構の保存を図りながら複合遺跡の理解が可能な環境整備を目指す。                       |
| 6   | 環境保全ゾ<br>ーン   | 国分寺との関連も指摘されている八幡宮の境内空間や緑地としての社叢の現況維持を目指す。                                |



三河国分寺跡史跡整備のゾーン区分概念図

#### 4 今後について

三河国分寺跡整備基本構想の中では、具体的な整備手法については、今後も整備のための発掘調査等を重ねながら基本計画の策定の中で検討することとしています。また、現国分寺については当面現在地に残すこととし、史跡全体と調和のとれた境内の修景整備が課題として挙げられました。国史跡指定 100 周年となる平成 34 年を当面の保存整備事業完了の目安として、エントランスゾーンについては先行して暫定整備を行う予定です。